

米日比較のための問題集

——アメリカ安全運動の概観を兼ねて——

上野 継義

1. 安全運動のはじまり

いつ？ 1905年頃

どこで？ イリノイ製鋼 (U.S.スチール子会社)

だれが？ ロバート・ヤング
H. B. スミス

2. 安全運動の担い手は誰か？

a) 個別企業レベル

b) 産業レベル（業界団体の働きなど）

c) 国家の役割（米国の場合、州および連邦政府）

2. 安全運動の担い手は誰か？ a) 個別企業レベル

セイフティ・マン

職場レベルの事故防止活動を主導したのは安全管理者たちである。彼らは自分の仕事を一個の専門職として発展させようと考えていた。全国安全協議会 (National Safety Council) の設立も、シカゴ地域のセイフティ・マンのイニシアティブで進められた。

2. 安全運動の担い手は誰か？ c) 国家の役割

国家の関与の仕方

(1) 州政府、企業に協力的

工場監督官、州労働統計局

ウィスコンシン州の場合、産業委員会

州によって異なる

(2) 州際機関 労働災害行政機関国際協会

(3) 連邦政府、批判的な支援

連邦労働統計局（労働省）、公衆衛生事業局（財務省）

2. 安全運動の担い手は誰か？ c) 国家の役割

(1) 州の工場監督官（一般的にいえば）

企業と工場監督官の関係は、労働者災害補償法の制定を境におおきく変化した。制定前の工場監督官は企業の経営行動を文字通り「監督」し「監視」する立場にあり、しばしば敵対的な関係にあった。それが労災法の制定後は、工場監督官はセイフティ・マンと協力関係を築くようになる。

2. 安全運動の担い手は誰か？ c) 国家の役割

(3) 連邦労働統計局

連邦労働統計局は安全運動の発展を願い、企業の事故防止活動を支援したが、セイフティ・マンの仕事に注文をつけ続けた。決して無批判ではなかった。

とくに特別調査官ルーシアン・チャニーは、セイフティ・マンの教育重視の姿勢（事故原因は労働者の不注意にあるとの考え）を徹底的に批判した。

3. 安全運動の全体的な特徴

a) 革新主義期の社会改良運動と連動
たとえば、自然資源保全運動

b) 事故防止中心の運動

産業衛生 (industrial hygiene) への関心が低調

c) 企業外部の協力者

訪問看護婦協会など

4. 安全委員会の働き、その1

a) 当初の目的と新しい発見

労働者に保安上の注意を与える
労働者の提案をくみ上げる制度

b) 合同委員会型へ発展

南シカゴ製鉄所の「合同安全委員会」
労使協議の初歩的な実験

4. 安全委員会の働き、その2

c) 労使紛争後の労務改革提案に盛り込まれる

コロラド戦争

インタナショナル・ハーヴェスターの争議

d) 労使協議制へと発展

「合同委員会型」従業員代表制の原型
設計思想と合意形成の技術

5. 事故防止と産業衛生の関係は？

産業衛生への取り組みが遅れた

その理由：

- (1) 労働者災害補償法の問題
- (2) カンパニー・ドクターの独立性の問題
産業医学の制度化の遅れ